

## 山中二男\*: 広島県道後山麓の蛇紋岩地のフロラ

Tsugiwo YAMANAKA\*: Serpentine flora of the foot of Mt. Dogo,  
Hiroshima Pref.

日本の蛇紋岩地帯のフロラは近年いじめるしく明らかに成り、所生の植物の種類はつきりしてくるとともに、生態・分布上からもきわめて興味深い事実が指摘せられるにいたつた。しかし、まだ小規模の露出地では十分調査が行われていないところも多く、しかもかような場所に意外な事実が見出される可能性も少なく、ここに報告するものもその一例である。

一昨 1956 年の 10 月に中国地方を旅行したさい、一日広島県比婆郡東城町(旧小奴町村の分)に赴いた。ここで道後山麓の持丸放牧地を訪ね、短時間ではあつたがその植生を観察する機会を得た。海拔約 760m あたりに小区域ながら蛇紋岩の露出地があり、かねてから蛇紋岩の植生に興味をもっていた私は、特に注意して観察した。しかし、なにぶんにもきわめて限られた時間であつたので、くわしいことはわからず今後の再調査にまたなければならないが、フロラの面からはかなり面白いものがあるのではないかと思う。

附近の森林は放牧によつて相当荒れていところもあるが、だいたいクリ、ナラ、シデ、カエデ類などの多い林相をなしている。しかし、蛇紋岩の露出地では大きな喬木はあまりなく、クマシデ、コナラ、ツノハシバミ、ダンコウバイ、ウツギ、コゴメウツギ、イヌツゲ、コバノガマズミなどにまじつて、附近の森林にほとんど見られなかつたズミやウメモドキが出てくるし、クサボタン(花は無かつたが *Clematis stans* であろうも見られ、また一部にはササも入りこんでいる。岩壁のようなところではスゲ類、ギボウシの一種(いずれも花を見ずはつきりした同定はできない)、タチツボスミレなどが多かつた。

ところで注意すべきことは、これらとともにマルバメギ(アカジクヘビノボラズ)(*Berberis amurensis* var. *brevifolia* Nakai=*B. bretschnideri* Rehd.)の生育が見られるが、これがこの蛇紋岩露出地を標徴するかのごとく多いのが特に目につくことである。ここに見られるこの植物は、谷筋や岩壁上あるいは蛇紋岩の転石のある斜面に頻繁に見られ、前年枝および葉柄は紫褐色ないし赤褐色を呈し、葉は長さ 3-5cm、卵形ないし倒卵形をなしている。これはヒロハノヘビノボラズと同じ種であるが、従来ヒロハノヘビノボラズの類は北海道から本州中部にまで知られ、本州の西南部に無くて、四国の東赤石山と西赤石山のいずれも蛇紋岩上に生じ、さらに九州の白岩山の石灰岩地から報告されている。<sup>1,2)</sup> 水島正美氏の御教示によると、北海道および本州でも本種は森林の発

\* 高知市、高知大学教育学部生物学教室

達しない岩場のようなところに多く、しかも古い地層の山に多く出てくるとのことであるが、西南日本ではやはり以上述べたように、特殊な母岩の地に隔離的に分布する傾向が明らかに認められるが、このたび中国地方の割合低い山地で、しかも蛇紋岩上に見出されたことは、少なからず興味深いものがあると思う。なお、マルバメギといわれるのは、もともと至仏山が type locality であるが、アカジクヘビノボラズといわれるものとは、生態的に異つた環境に出た個体群にすぎないと考ええるということ、やはり水島氏からうかがつた。ついでに、四国の赤石山脈のものは、葉が広島県のものより、より小さく長さ 3.0-3.5cm、巾 1.0-1.5cm であるが、このような葉の大小の変化については、既に原博士が述べていられるとおりである。<sup>3)</sup>

また、この蛇紋岩地には個体数はマルバメギほど多くはないが、第二シモツケ (*Filipendula kamtschatica* Maxim.) が稀でない。本種も従来本州では中部地方から北に分布するものとして、西南日本からはまだ確実な報告のなかつたものであるが、意外な分布をしているのが注目された。死は既に終つていたが、果実や葉の性質から、明らかに第二シモツケと同定されるので、ここに報告しておきたい。なお、細分すればこの第二シモツケはケナシオニシモツケといわれる型である。

蛇紋岩地帯は、石灰岩地帯などとともに、古い植物の遺存や隔離分布するものの多いことは、ここにあらためて述べるまでもないことであるが、このような小区域の露出地でも、上に述べた例のあることは、それをあらためて注意する必要があると思う。露出が狭小な場合は、植生全体としては周辺部とあまりいちじるしい対照をなさないことも多いが、それでもフロラはかなり特徴的なものが出てくるとは稀でない。この場合もその一例と考えてよいのであろう。なお以上述べた蛇紋岩露出地のフロラについては、その一端を紹介したにすぎず、きわめて予報的なものであることをおことわりしておきたい。

終りに、この旅行にいろいろ御配慮いただいた高知大学長久保佐土美博士と種々有益な御教示をいただいた水島正美、靄山泰一両氏に厚く感謝の意をあらわしたい。

- (1) 北村 四郎: 植物分類地理 14, 175 (1952).
- (2) 平田 正一: 服部植物研究所報告 13, 8 (1955).
- (3) 原 寛: 植物研究雑誌 18, 462-463 (1942).

### Summary

A small serpentine outcrop occurs at the foot of Mt. Dōgo, Hiroshima Prefecture. The flora of this serpentine area is characterized by the occurrence of such plants as *Berberis amurensis* var. *brevifolia* Nakai, *Filipendula kamtschatica* Maxim., and others.

*Berberis amurensis* var. *brevifolia* Nakai is a new addition to the flora of western Honsyū, and *Filipendula kamtschatica* is also new to western Japan. It is an interesting fact that these plants appear disjunctively on this serpentine area.